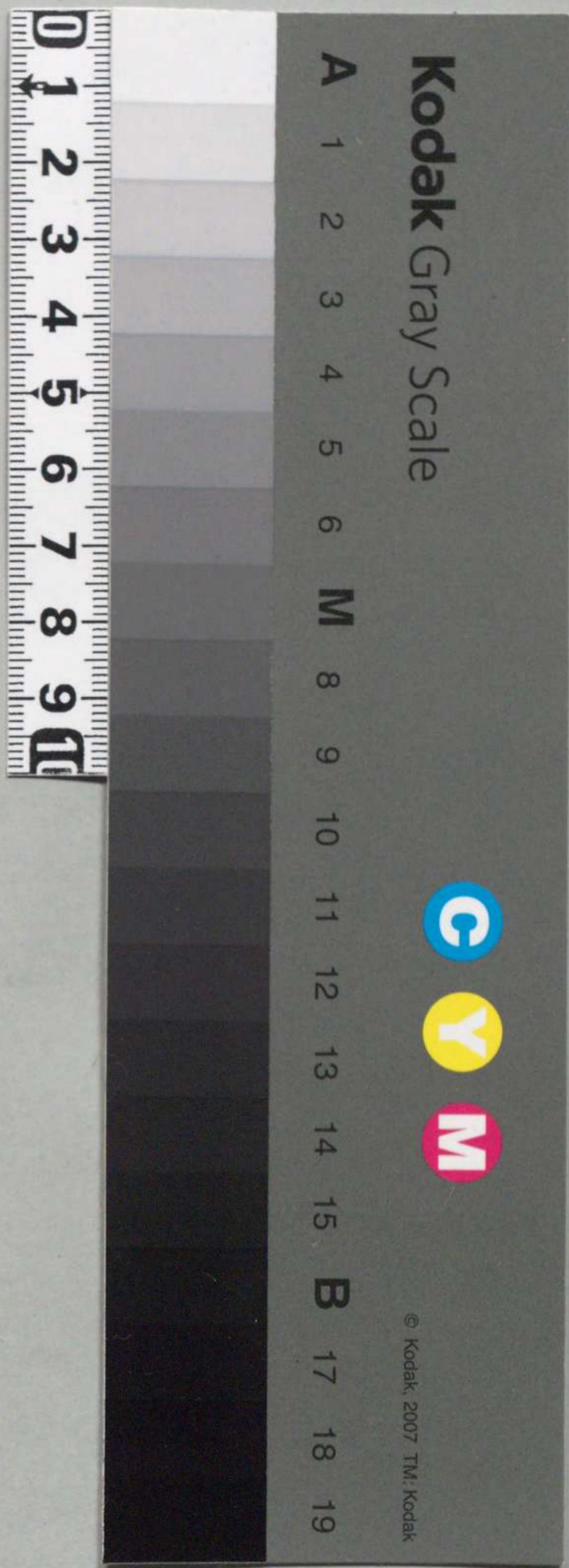
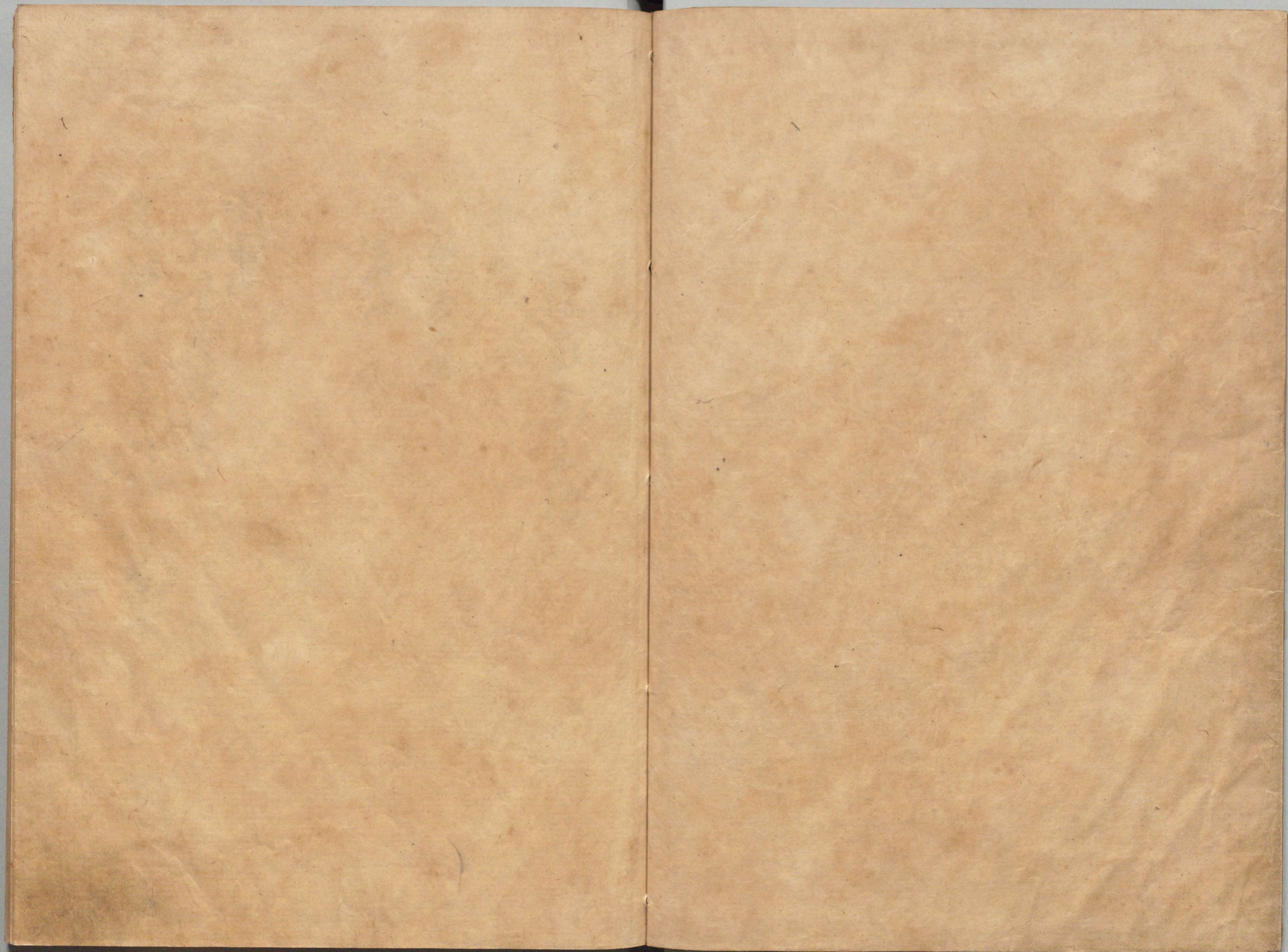


寛永諸家譜

平氏十九冊之内
繁盛流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 (68)		
函號	特	76	1





岩城

城玉虫

小栗

寛永法家系譜傳

平氏

磐盛流

岩城

良守

法守府將軍

後一書大探圖香とあり

淺草文庫

貞盛 まこと

法守府將軍 りよぶのふのりやうん

後白位下 ごあか

繁盛 まげり

濠奥指守 ほりのごんのさし

指守

安忠 やすしん

則道 のりち

岩城次郎 いんぎ

則道代 のりちのしろ 之 の 岩城氏 いんぎのうぢ と稱号 なづかひ
也 なり

忠清 ちゆせい

次郎

清隆 せいりゆう

次郎

師隆 しりゆう

左郎

隆行 りゆうぎやう

次郎

澄平たうひ

次郎

澄守たうしゅ

次郎

義徳ぎとく

次郎

照徳てうとく

次郎

照義てうぎ

次郎

朝義あさぎ

次郎

法名重祐ほうみやうすけ

孝朝きようてう

次郎

法名親堂ほうみやうしんどう

清胤きよむね

次郎

法名徹山ほうみやうてつさん

隆忠

下総守

法名實山

親隆

下総守

法名虎山

常隆

下総守

法名可山

申隆

氏部右将

法名智山

重隆

左京右史

法名月山

親隆

左京右史

伊達胤宗が嫡男重隆が外孫より
跡とほぐ

文禄三年七月十日より病死
法名光山

常隆子

左系左史

小田原陣より後向と御陣以て
天正十八年七月廿二日早死

とほぐ病死二十四歳 法名鐘山

貞隆子

忠次郎

實ハ依竹常隆女義重が三男貞隆
親頼よりよりとほぐ
右連院殿の幕下に属し大坂西陣
とほぐ

元和六年十月十九日江列

とひく病死 歳二十八 法名雲山

宣隆

他馬守

貞隆が嫡男修理左衛門佐竹義宣
の跡とけいぐはゆり身宣隆兄
貞隆が跡と継

寛永十一年十二月廿九日あるごかげ後五位下

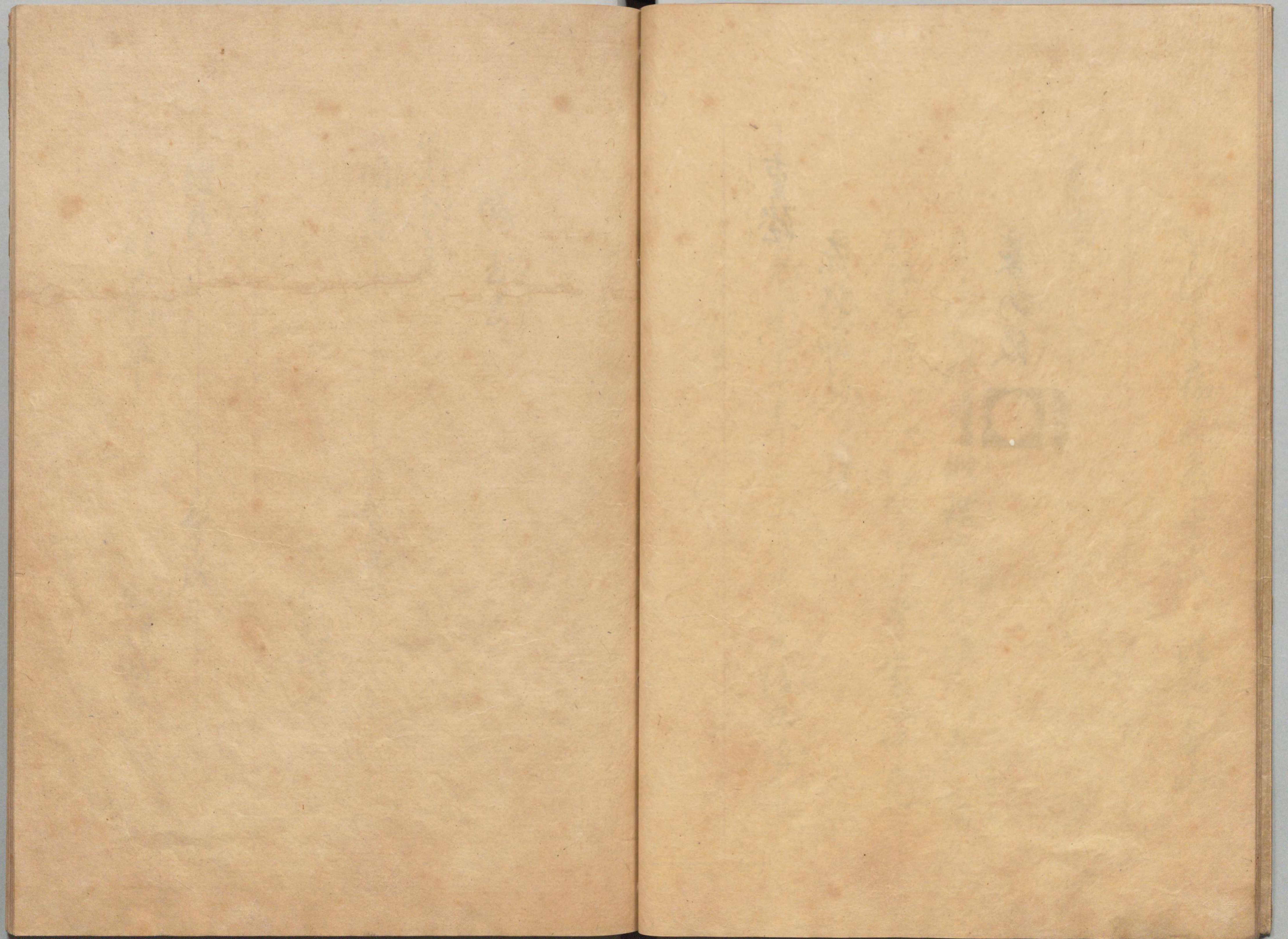
叙と

重隆

左次郎

家の紋





城玉虫

桓武天皇九代

● 國香

繁盛

出羽城分

維茂

繁成

出羽軍

出羽城分

貞成 まこと

城太郎 しろの

永基

二郎

助國 すけくに

九郎

助永 すけなが

越後守 えちごのり

長茂 ながしげ

兄助永あにすけなが元玄もとげんのの后ご越後守えちごのり中務なかつむ

資盛 すけもり

左郎

付間つま数代かずだい中務なかつむ守もり

貞茂

玉虫次郎左衛門 生國越後
城氏の庶流なり城氏八世宗領一人
是と稱どこのゆへに玉虫と号と
ほ式部少将中河守と
長尾為宗とよび京虎とけふ
信列とよひとて八十餘あり
死と 法名道香

京茂

次郎左衛門 和泉守 意高 生國
越後
長尾京虎とけふ之國扇とあづけ
らる今とよひとて取持とこのとよ
京茂とて二十ふ
玉虫次郎玉虫たりとてともて
城氏の宗領以絶とけふ

より元龜三年武田晴信京茂と
志々城氏と継しめ自筆の書と
授今よとひくこ色あり
甲列没落此以後天正十二年
大指現越後國古志郡中領よりよ
より京茂小是とたゆふ湯朱平
るるびりし書今よりとひく
所持と
長久より陣よ

大指現より志々城より
同十五年駿府よとひく死と
歳六十六 法名道逸

繁茂

玉虫次郎大指 對馬守 生國越後
父貞茂と同越後とより武田
晴信及勝頼二代より
天正十二年より兄乃京茂と同

大指現より此之きくまら

同年長久手河陣小志さくま

くくまら

長久手河原河陣より信長

同年 約余よりまら

信長院殿より此之きくまら

同十六日

大指現の終よりくくまら 忠輝より

此ふ

元和元年大坂河陣より忠輝より

くくまらよりくくまらより忠輝より

關國せらりされよりくくまら

同八年小

信長院殿の終成りより忠長より

此ふ

寛永元年武列河原よりくくまら

死より七十九 法名道正

俊茂

玉虫次郎右衛門

生國武苑

始は父とおるしく右輝之よは之

え和え之り大坂陣より忠輝之

よとささぶ

同八年

台徳院殿の侍とあり父と同一く

忠長つよつよ

同十六年より

將軍家よは之しくささぶ

昌茂

城織部依

和泉守

生國同あり

武田晴信勝頼よりは之

天正十二年父系茂とおるしく

古来和とありしく

大権現とありしくささぶ

長久寺此所陣より侍を
文永五年園原所陣より侍を

同十九日元和元年大坂両度
所陣小

大指現より寺に組みこむまつり

寛永三年信列よりとひく死

少一七年六法名宗仲

重茂

玉虫助太夫 生國甲斐

文長十子

台徳院殿より湯一をくまら

大坂両度の所陣より侍を

元和五年より

將軍家よりつとむる

宗茂

八尾所 生國と結

元和三年より
將軍家より侍之りしより

清茂 きよしげ

玉出助十郎 生國武苑 しこくに

寛永十三年より

將軍家より侍之りしより

信茂 のぶしげ

がのやうのせう
城藏初依

生國甲斐

寛永五年 關原清陣より かんのしげ

大指現より侍之りしより おささき

台徳院殿より侍之りしより そのしげ

大坂お度の清陣より侍之り

寛永九年より

將軍家より侍之りしより

同十六年 武列より侍之りしより 病死

少一 六十二 法名宗恕 しげ

朝茂

城守在東 生國武苑

寛永四年より

台徳院殿より此之きまぐまう系

同九年より

將軍家より之きまぐまう系

時茂

玉虫友の 生國同系

寛永四年より

將軍家より此之きまぐまう系

高茂

玉虫友の 生國同系

寛永十三年より

將軍家より之きまぐまう系

某

万石 まんきり

生園回お

家の紋 いえもん
花菱 はなひし

維幹 いけん

為幹 いけん

● 繁盛 しげき
平将軍 へいしやうぐん

小栗 こり
常陸國 ひらぬきのくに
うりか

重幹しげ

重家しげ

重能しげ

平治合戦の時鶴坂よとひとく討死つら

重成しげ

源平合戦のゆきと壇乃湯よとひとく討死つら

重廣ひろ

重朝しげ

重信のぶ

南みなみと号ごうと

頼重より

重宗しげ

右衛門尉うゑもんゑい

重政しげ

重政しげ
重政しげ

重貞しげ

重顯しげ

河澄又次郎かき

重秀しげ

厚科小三郎あき

重家しげ

横濱辰王と号よこ

重光しげ

重行しげ

大開文珠丸おほ

重勝しげ

重清しげきよ

金尾屋彦五丸かねおやひこ

重益しげえき

詮重しげしげ

幸江守しげまもり

氏重うぢしげ

基重もとしげ

満重みつしげ

助重すけしげ

常隆外しげのり

常隆外しげのり

重弘しげひろ

弾正丸だんしょう

重久しげひさ

法名寺河しげのり

真重ましげ

三郎左衛尉さぶらうざゑ

重昌しげかつ

雅系助みやここのすけ

冬河田平田合戦ふゆのせらひのへらよといふに付死しに

憲重のり

付死

某

竹子代丸たけがよまる

正重ただしげ

某

お家泊記おけしりき并澄宮内ならんていぐみやうの

正次ただしげ

十在衆じゅうざいしゆ

生國冬河

台徳院殿より所ふまらり大浄書と

法と心

寛永九年のころ死とやう一甲八

法名浄林

正盛

檀那寺

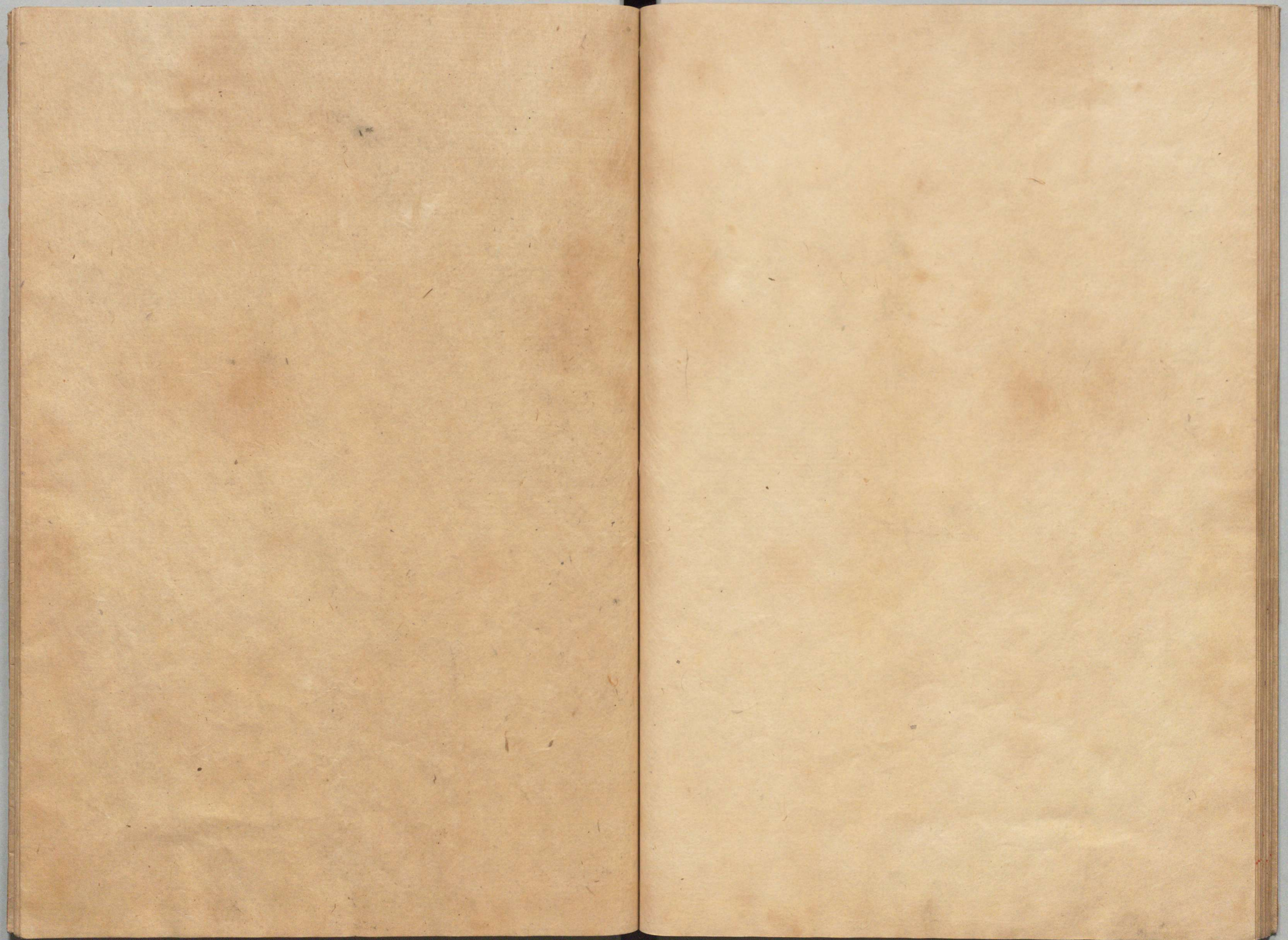
生國武苑

寛永十一年より

將軍家より所之きまらり大浄書

と所と心

幕紋角の内より月下立波



名徳院殿より侍ふまゝ
寛永三年七十歳少く病死

正信

右七郎 生國同前
名徳院殿より侍ふまゝ
寛永元之二十三歳少く病死

正重

右七郎 生國茂茂
寛永七年十六歳少く
名徳院殿より侍ふまゝ
覺沙の母
將軍家より侍ふまゝ

正利

右七郎 生國茂茂江戸
寛永二年

右徳院殿より湯より三つ三つと
將軍家より片之なり

家の紋波より平地より六立波

小栗

久次いさ

右左衛門

生國次い河か

永祿えい九く年

大指規おほさしり一い寸すん之の一い寸すん一い寸すん一い寸すん

元和二年げんわより

台座院殿たいざえん一い寸すん一い寸すん一い寸すん一い寸すん

寛永四年七十九少く病死

政次

長右衛門 生國彦江

寛永五年より

大指現より此之末より

同十一月

台座院殿より此之末より

寛永九年より

將軍家より此之末より

久俊

長右衛門 生國彦江

元和七年

台座院殿より此之末より

寛永九年より

將軍家より此之末より

久成くさき

またあつ 生國同あ

寛永三年より

將軍家よりは之よりあつ

政後まさご

またあつ 生國武苑

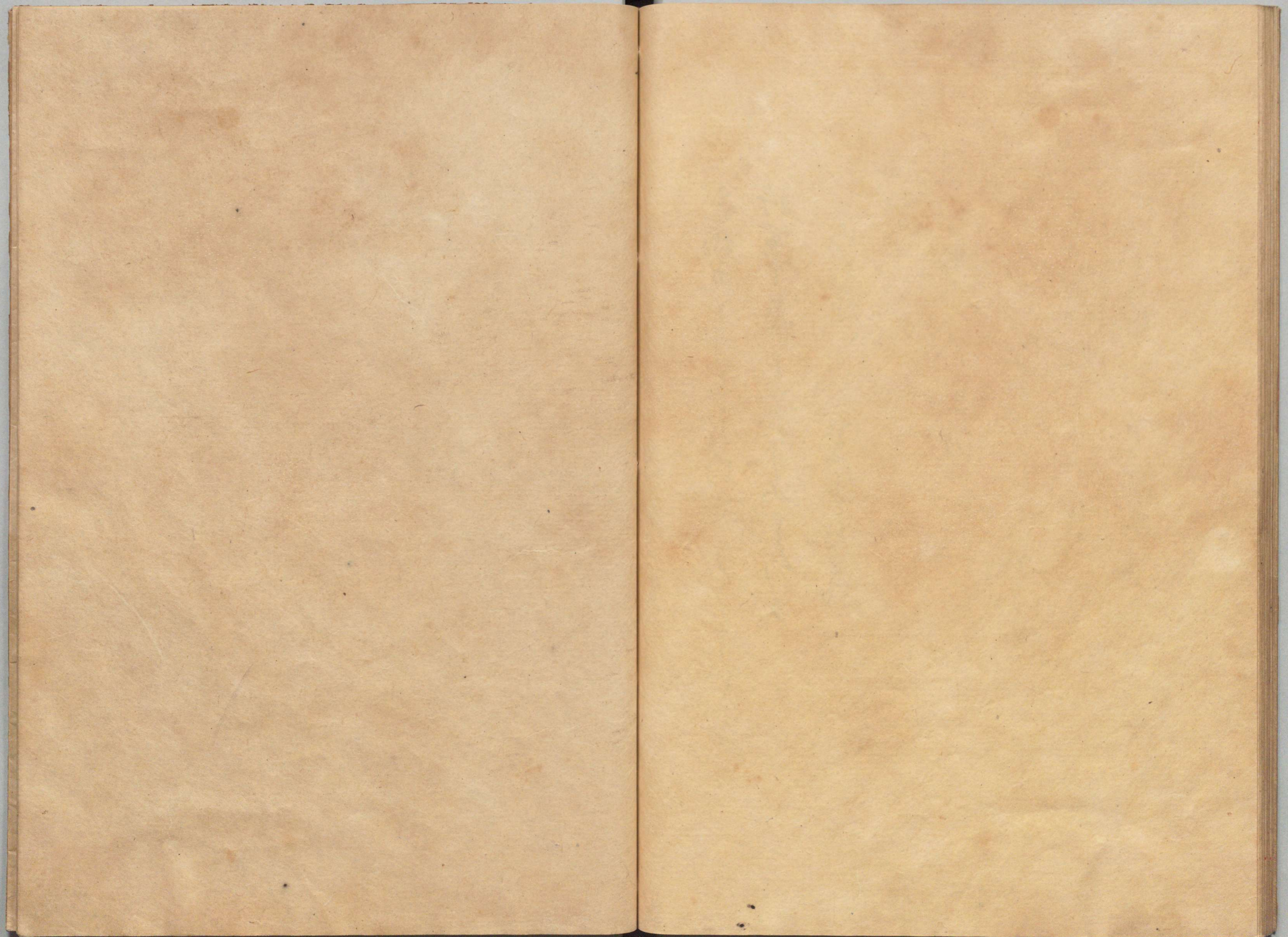
寛永七年

台地院殿よりは之よりあつ

同九年より

將軍家よりあつ

家の紋いへ 立波たてなみ



小栗

久勝

九郎右衛門 生國冬河

永祿十一年

大権現より此之たごもろ

之和二月より

台徳院殿より子あまろり

寛永六年より病死歳七十七

久玄

平吉 生國を以

長三年

大指規より之より

同六年より

台漣院殿より

寛永九年より

將軍家より之より

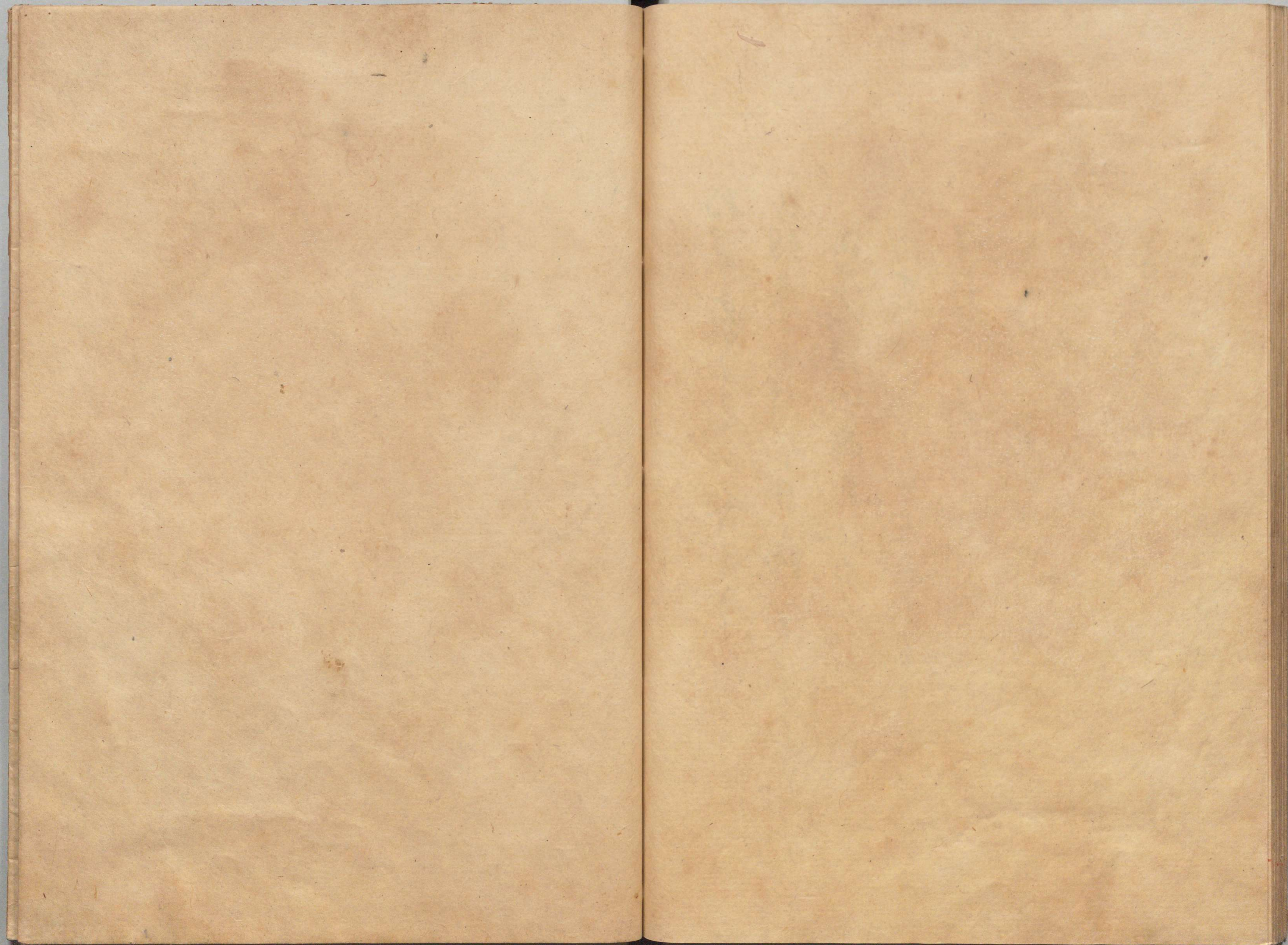
同年五月十日 約命より

小十人組の番頭より

同十二月布衣と着より

より

家の紋 立波



小栗

● 元久もとひさ

依原次郎左衛門

生國冬河

元次もとつぐ

太郎右衛門

生國河

え重いしげ

右場みぎのへ

生國なまくに回まわり

ううてて小こ栗ぐり氏しよあらういふ

え和わ口くちのの十じゅう一いち月げつ亦またりあり

将軍しょうぐん家けりりははななままり

家けのの紋もん丸まるのの内うちよよ二に列りゅう

